

草木花

たんぽぽ

寒い寒い冬をもちこたえるため
大切なつぼみをぎゅっと閉じて
待っていた春

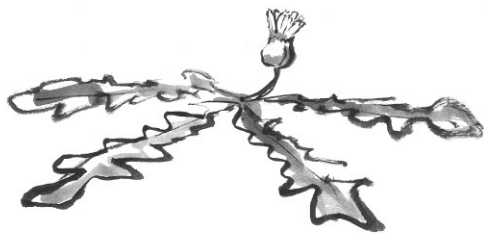
おひさまがあんまり突然呼ぶから
ほら、春だよ と呼ぶから

あわてて開こうとして

はなびらが伸びるのが間に合わない
一、二、三、と指折りかぞえてる
手のように

寒い寒い冬の終り

急にやってきた 明るいき春の日に



ひっそりと

薄い陽のさす水のふち
はっと目を引く
小さなはなびらが開く
薄地の焼きものを思わせる
りんとした白色
ヒメウズという花



・
・
・
・
・

久しぶりに歩いた森の径

萌えだした緑の間から

小さな黄色い花が首をのばし

しきりに話しかけてくれたのだけど

いつの間にか

森の言葉を忘れてしまつて

何を言っているのか

とうとう判らなかつた

まっすぐ私に向けられた笑顔は

今も胸に焼きついているのに

花かんざし

舞妓さんにあこがれていた頃があつた
そのかんざしに惹かれていたことがあつた
ほんの子どもの頃

今日 小網代で

一番美しいものは 自然の中にあると分かる

きぶし

そのしなやかな花しだれ

みずみずしい花枝に髪を寄せれば

あのときの舞妓さんより

きつとわたしはきれいにみえる

